

薩摩藩 英國留學生 同行記

Record of Satsuma Students Travel Companions

欧州視察、 商社設立の 目論見

第4回
全6回

参考資料／薩藩海軍史、薩摩藩英國留學生

画／竹添 星兒 本文監修／東川 隆太郎



ロンドンでの生活も落ち着き、それぞれの学業を学び始めた留學生だが、彼らに同行する視察員もまた今回の旅の使命を果たすためにさまざまな行動を行っているようだ。

オリファントとの出会い 寺島の外交工作

そもそも今回の留學生派遣には、留學生による西洋技術の習得のほかに、もう一つの目的があった。それは視察員が西洋の機械や武器を買い付け、薩摩藩の産業の発展と軍事力の強化を図るといふものだ。

ロンドンに到着後まもなく、視察員らは貿易商クラウアーの紹介で英國議員のローレンス・オリファントと面識を得た。オリファントは安政五（一八五八）年の日英修好通商条約調印の際に日本を訪れ、日本の風景や国民性に魅せられた人物だ。二度目の来日の際は在日本英國公使館一等書記官に任ぜられて着任したものの、滞在数日で水戸浪士に襲撃され、重症を負って英國へ帰国した。それでもオリファントの日本びいきに変わりはないようで、ロンドンでも視察員らを快く迎え、さまざまな助力をおこなってくれている。

七月には視察員のひとり寺島宗則てらしまむねのりがオリファントの仲介で外務次官を訪問し、英國政府との折衝をおこなった。これは通商条約の批准権を幕府から朝廷に移してほしいという内容で、実際には英國という外国の圧力を利用して幕府の力を削ぎ、雄藩の力を強めることが目的だ。この交渉は薩摩藩が自由に貿易を行うためにも必要なものだが、英國側としても大きな取引が見込めるため、おおむね好意的に受け止められたようだ。この寺島の外交工作は今後の英國の対日政策にも大きな影響を与えるものとみられる。

寺島の外交活動と平行して、五代と新納久脩にいろうひさゆき、堀孝之ほりたかゆきの三人は二週間ほど英國各地をめぐる、紡績機械や武器の買い付けをおこなった。武器はバームンガムの「シヨルト商会」より小銃数千挺を購入した。紡績機械はマンチェスターの「プラット社」に注文を行い、慶



五代らは英國をめぐる、紡績機械や武器を購入した。



あさくら もりあき
朝倉 盛明

(天保14(1843)年 - 大正14(1924)年)
薩摩藩英国留学生として英仏留学の後、薩摩藩開成所のフランス語学教師となる。維新後はフランス人技師コフニエの通訳を務めるとともに、兵庫県の生野鉱山の開発に尽力した。

写真：鹿児島県立図書館 蔵



たかみ やいち
高見 弥一

(天保4(1833)年 - 明治29(1896)年)
薩摩藩英国留学生としてロンドン大学で機械学や運用測量機関などを学び、翌年帰国。維新後は大阪運上所に勤務するが、明治5年に鹿児島へ戻り鹿児島県立中学校造士館で算術教員を務めた。

写真：鹿児島県立図書館 蔵



まちだ せいぞう
町田 清蔵

(嘉永4(1851)年 - 没年不詳)
町田久成の末弟で薩摩藩英国留学生としてロンドン大学で造船を学ぶ。翌年フランスに渡り、普墺戦争を見学する。帰国後は財部家の養子となり、財部実行と名乗った。

写真：鹿児島県立図書館 蔵



応三(一八六七)年に技師三人とともに薩摩藩へ届けられる予定だという。

欧州視察

商社設立の準備

九月からは五代、新納、堀の三人によるヨーロッパの視察旅行がはじまり、現在、一行はプロイセンの首都ベルリンをはじめ、オランダのアムステルダム、ハーグなどを回っている。

目的は欧州諸国の視察ではあるが、さらに重要な用件は商社設立の準備を行うことにあるようだ。もともと商社設立は五代の構想のひとつだったが、フランス貴族のモンブランと出会ったことがその実現の可能性を大きく高めた。五代は欧州に商社を設けて富国強兵に必要な機械や技術を得る窓口



視察員らはブリュッセルで商社設立の協議を行ったのち、ヨーロッパの各都市を巡り、視察を行った。

したいと考えているが、それは欧州側にも大きな利益を生む。この商社設立への協力はモンブランにとっても魅力的な話だったに違いない。一行はモンブランの助力を得て、ブリュッセルでベルギー政府当局者の出席のもと協議を行い、十月十五日には商社設立の仮契約を行うに至った。

目的の実現に向けて順調に前進する視察員らだが、各都市の高度な産業を見るにつけ、日本との大きな差に焦りを感じているようだ。一行は蒸気機関や大小砲製造などのさまざまな産業設備を見学し、西洋の事情に明るい五代でさえ「欧羅巴^{ヨーロッパ}へ参り種々の製作所を見るに其弁なる実に驚くに堪へたり」と改めて感嘆し、産業による国力の増強が必要であるという考えをさらに強めた。一行は十二月までヨーロッパの各地で視察と外交を行い、薩摩藩の外国貿易を基調とする富国強兵の足がかりを築く予定だ。

※本紙は薩摩藩英国留学生の当時の様子を紹介する企画です。本文中の時間は新暦とします。

次回
参加
巴里万国博覧会へ

